



4 町民を守る

松前町では、様々な防災対策への取り組みを行っています。

自主防災組織を支援

新しく結成された自主防災組織には、災害時の活動に必要な防災資機材を貸与しています。
また、リーダー研修会の開催、防災士の資格取得など、防災リーダーの育成に努めています。

公共施設の耐震補強

現在、耐震基準に則した松前中学校体育館の改築を計画しています。他の公共施設についても、今後計画的に耐震補強を実施していきます。

防災備蓄品の確保

町内で大規模な災害が発生した場合、食料や生活必需品の供給について、株式会社フジと協定を締結しています。

大規模地震災害対策基金

大規模な地震による災害の予防、応急対策や復旧などに要する費用経費に充てるための貯金は、平成20年5月末現在で9,131万円となっています。

総合防災訓練に参加しよう

日時 9月7日(日) 9時～
場所 松前公園多目的広場
松前総合文化センター(広域学習ホール)

防災訓練
9時～
▽避難訓練
▽初期消火訓練
▽救出救助・応急救護訓練など

防災講座 「実際に被災してわかったこと」
10時30分～ 阪神淡路大震災の語り部
矢崎 由美子氏

展示・体験コーナー
▽緊急地震速報・注意報警報基準変更早分かりコーナー
▽住宅用火災警報器取付相談
▽煙体験コーナーなど



※ 当日の午前8時5分に訓練地震情報の町内一斉放送を行います。本当の地震と間違えないようにお願いします。

自分たちでできることは自分たちの手で

3年目を迎える神崎自主防災会

平成17年8月の結成から3年が経った神崎自主防災会。住民の意識は高まってきたのでしょうか。

「今年の防災訓練に参加してくれた人数は347名。昨年は252名のため参加者は増えましたね。ですが3年経った今でも、一人ひとりの意識は低く、まだまだ啓発の段階じゃないでしょうか」
そう話す高石会長。そう感じる理由とは。



神崎自主防災会
会長 高石勤さん

「自助ができていても、共助の意識がまだまだなんです。いざ災害が起きたとき、寝たきりの人は誰が救助するのか。やはり近隣住民の協力が重要です。毎年、寝たきりの方や独居老人の方などの情報を得ようと、住民に調査票を配っているんですが、なかなか情報が集まりません。災害発生時に地域で協力して活動するためにも、民生委員とタイアップするなどして、なんとか住民情報データベースを作りたい

と思っています」

「災害は神崎だけに起きるわけじゃないですからね。これからは各地区の繋がりが必要なんじゃないでしょうか。今は点だけど、線で結ばないと意味がありません」

共助の重要性を認識し、他の地区とのかかわりも深めるべきだと語ってくれた会長。3年目の転機としての今後の取り組みについては、次のように話してくれました。

「啓発的なことはまだ十分じゃないですが、実践にいかなければいけない時期だと思っています。人を集めるために運動会と合わせて行っていた防災訓練を、来年からは離すつもりです。家から避難するところから始めて、家族をどう避難させるか、避難場所までは何分かかかるかなど、実際に体験してもらいたいですからね。また、今までは消防署職員などプロに教えてもらっていましたが、これから自主防災会役員の中の消防団OBが核となり、指導も自分たちが中心となって取り組みたいと思っています。自分たちでできることは、自分たちの手でやっていきます。そして、みんなに参加してよかったと思ってもらえるように頑張ります」